

BBS会会長賞

堺市立 浜寺中学校 二年

小田舞衣

つながりを大切に、犯罪がおこらない明るい未来へ

私の祖父はほぼ毎朝、近くの公園でウォーキングをしています。私も春休みや夏休みには、祖父に連れて行ってもらうことがあります。私は祖父と一緒に公園を歩くことが好きです。公園に行くと、祖父の顔見知りの仲間の人たちが「おはようさん。」と気さくにあいさつをしてくれて、私はいつもほっこりとした気持ちになります。祖父たちは、最近暑いことや、体調に気をつけていることなどの何げない日常の会話をしていました。私はそんな祖父たちを見て考えたことがあります。それは、人とのつながりをもつことで、悩んでいることや不安に感じていることがサッとふきとび、犯罪がおこらない、みんなが笑顔でいられる社会になるのではないかということです。私は不安なことがあるときに、家族や友達と少し会話をするだけでだいぶ気が楽になり、「あれほど考えていたのは何でだろう。」と疑問に思うこともあるくらいです。自分の話をしたり、または自分以外の人の話を聞いたりして気がスッキリした経験がある人もたくさんいるのではないでしょう。だれかにアドバイスをもらつてはじめて分かったこともあるかも

しません。人と人とのコミュニケーションを交わしていくと、自分では気がつかなかつた新しい視点で物事を見ることができるようになっていくものなのだと感じました。

祖父たちが自然と集まつているような気軽に話ができる場所をつくることが、悩み事がある人の支えになるのではないかと私は考えました。つまり、犯罪の種をつくることにつながると思うのです。私がニュース番組などの情報機関で見た犯罪をおかしてしまつた人たちの中には、心に秘めた強く思い悩んでいることがあつて、そのことを解決できずに犯罪をおかしてしまつたという人も多くいました。その人々は、もしかしたら、だれにも相談できずに一人でかかえこんでがまんできなかつたのかもしれません。もし話ができる場所があつたなら、少しでも心に余裕が生まれて犯罪をおかさなくともすんだ人だつていたのではないでしょう。それなら一刻も早く、自分の話ができる場をつくり、私たちがその人の心によりそつてあげるべきだと思いました。その場にいる人全員が一人一人のできることをして、だれもとりのこ

されないように考えていくことができる未来へと、社会が変わつていけるようになつてほしいです。そのためには、今できることからはじめていく必要があると思いました。まず分かつておかないといけないのは、犯罪はだれも幸せにならないということだと思います。犯罪はいろいろなケースがあつて、犯罪をおかすしか生きていく道がない場合や、自分の気晴らしにするという場合などがあつて、どれも全てざんこくで悲しいです。犯罪をおかすというのは、必ず被害者がつきものです。その人やその周りの人々をどれほど苦しめて悲しませたか、想像してもしきれないほどの感情が多くの人におそいかかってしまうのです。そのことを分かつた上で、犯罪がおきないための、社会を明るくするための方法を、私たちが考えて実行していき、未来まで受けついでいくことが大切なのだとと思いました。

